



高井戸東小学校

10月号
No. 631

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/takaidohigashisyou/> TEL 03-3304-5711

挑戦する心が育つ秋に

副校長 池田 浩

令和7年度も折り返しを迎え、ようやく秋の風が心地よく感じられる季節となりました。秋は爽やかで、何かに挑戦するのにふさわしい季節です。新しいことに一歩踏み出すには、ちょうどよいタイミングかもしれません。

「竹」の成長について、興味深い話があります。竹は、植えてから最初の数年間はほとんど背丈が伸びません。しかしその間、地中深くにしっかりと根を張り巡らせており、十分に根を張った後、ある時期を境に一気に成長します。

この竹の成長は、私たちの挑戦にも通じるものがあります。すぐに結果が出ないこともあります、見えないところで力を蓄える時間が、必ずその後の大きな成長につながります。

挑戦には不安や迷いがつきものです。失敗するかもしれない、うまくいかないかもしれない。そんな気持ちになることもあるでしょう。しかし、挑戦しなければ何も始まりません。アメリカの発明家トーマス・エジソンはこう言いました。

「失敗したことがない人は、何も新しいことに挑戦したことがない人だ。」

失敗は挑戦の証です。挑戦するからこそ、学びがあり、成長があります。

学校生活の中にも、挑戦の機会はたくさんあります。授業での発表、運動会でのリレー、音楽会での合奏、委員会活動での役割など、子供たちは日々さまざまな場面で「やってみよう」と一歩を踏み出しています。

最近、ある児童が「前は人前で話すのが苦手だったけど、頑張って発表したら、先生に褒められて自信がついた」と話してくれました。小さな挑戦が、確かな成長につながっていることを実感する瞬間でした。

私たちは「失敗」という言葉にネガティブなイメージを持ちがちですが、「失敗があったからこそ、次の大きな飛躍につなげることができる」という考えも大切にしていきたいと思います。

保護者の皆様にも、ぜひお子さんの「挑戦する姿」に目を向けていただきたいと思います。結果だけでなく、その過程にある努力や勇気を認めてあげることで、子供たちはさらに前向きに挑戦できるようになります。

この秋、子供たちが自分自身の可能性を信じて、勇気をもって最初の一歩を踏み出し、自分の無限の可能性を引き出していけるよう、私たち教職員も一人ひとりの挑戦を温かく見守り、全力で支援していきます。

本校の特別支援の取り組み

特別支援コーディネーター 鈴木 勇人

本校の特別支援の取り組み

本校では、これまで特別支援教育充実のため、通級指導教室(たかひがし教室)の活用や学習支援が必要な児童への個別の取り出し指導、校内特別支援委員会を中心とした、子供たちへの支援策に関する協議等に取り組んできています。

また、必要なお子さんについては、長期的な視点できめ細やかな教育的支援を行うために、担任と保護者と相談しながら、「個別の教育支援教育」と「個別指導計画」を作成しています。「個別の指導計画」は、より具体的に指導目標や指導内容・方法を設定して作成され、通級や取り出しの学習にも生かされています。

合理的配慮

学校での「合理的配慮」とは、障害のある子が他の子と平等に教育を受ける権利を確保するために行う、変更や調整のことです。例えば、読み書きに困難を感じている子に教科書読み上げソフトを使用することなどが挙げられます。

学校生活に支障をきたすことがないように、全教職員で連携を図りながら、子供たちが安心して学校生活が送れるようにするための学習環境を整備することを意識しています。一人一人の子供たちの学びが確かなものになるよう、これからもご家庭とも連絡・相談しながら進めてまいります。